

県立鹿島高等学校附属中学校【総合的な学習の時間の全体計画】（令和 7 年度）

総合的な学習の時間の第 1 の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようになる。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の教育目標

以下の学校の教育目標の達成を目指し、知・徳・体を育む教育活動を行う。

【知】 6 年間を見通した教育実践をとおして、確かな学力を育むことのできる学校

【徳】 様々な人々との交流を通じて、豊かな人間性とコミュニケーション能力を育むことのできる学校

【体】 文武両道の精神のもと、心身の健全な発達を育むことのできる学校

各学校で定める目標と育成する資質・能力

目指す生徒像を以下のように設定し、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成するとともに、その実現のために必要な教育活動を行なっていく。

- ・ 思考力・判断力・表現力を身に付け、主体的に課題を解決できる生徒
- ・ 国際感覚を身に付け、グローバル化が進展する社会で活躍することのできる生徒
- ・ 「自治・勤勉・快活」の校訓にもとづき、地域のリーダーとなることのできる生徒

総合的な学習の時間の学習評価

- ・ 総合的な学習の時間の学習評価を行ううえでは、「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を客観的に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるよう心がける。
- ・ 生徒の探究の過程をポートフォリオとして蓄積し、自己評価という形で定期的に見直す中で自らの教育活動を改善する場を設ける。また、探究した成果についてはポスターセッションやプレゼンテーション形式で他者に伝えることで他者からの評価を得ることができる。自己評価と他者評価を取り入れることで PDCA サイクルにつなげていく。

生徒の実態

- ・ 全体的に、学習に対する意欲が高く与えられた課題に対して積極的に取り組む様子が見られる。授業に参加する態度も良好で自分の考えや意見を伝えようと努力する生徒が多い。
- ・ その一方で、注意力が散漫な生徒や教師からの指示が通りにくい生徒もいる。
- ・ こだわりが強かったり、不安感の強かったりするなど特別な配慮を要する生徒もいる。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- ・ 特別な教育的支援を必要とする生徒に対する指導の充実を図るために、実態の把握をしたうえで判断基準や指導方法を確立する。
- ・ 言葉による指示だけでは行動することができない生徒に関しては指示内容を視覚的に伝えられる工夫を行う。

目指す生徒の姿

- ・ 身近な事象をもとに課題を見出し、その課題を解決する中でしようとすることで、自ら進んで探究学習に取り組む態度を身につけることができる。
- ・ 探究の過程で身につけた知識や技能を統合し、実生活で活かすことができる。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

探究学習を行っていくうえでは、総合的な学習の時間の学習指導要領に定める3本の柱に応じた資質・能力の育成を行う。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
 - ・ 探究的な学習を行っていくうえで必要な知識や情報をパソコン等を用いて横断的・総合的に集約し、まとめる力を育成する。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようになる。
 - ・ 様々な事象や情報に触れる中で自らの課題を設定し、その課題を解決してするために必要な課題解決能力を育成する。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。
 - ・ 生徒にとって身近な地域を題材とし、調べ活動や探究学習を行うことで自分が大人になった際に鹿行地域をどのように発展させていくか、どのように貢献できるかを考えさせ、自己と社会とを結びつける力を育成する。

学習活動、指導方法等

- ・ 本校独自の教育活動である K A S H I M A メソッドを通じた学習活動、指導を行い、生きる力を育成する。
【探究活動】
 - 科学的に探究するための手法(思考ツールを含む)
 - 地域課題をテーマとした探究活動（フィールドワーク）
- ・ 特に、国際教育、科学教育、キャリア教育の三本の柱をもとに探究学習を行っていく。
【国際教育】
 - 国内語学研修施設での英語実践力の育成
 - 外国人留学生との交流を通じて国際的な視野を広げる
【科学教育】
 - 地域の研究機関や企業等による特別理科授業
 - 実験重視の理科授業による科学的な思考力・判断力・表現力の育成
【キャリア教育】
 - 地域密着型の職場体験学習の実施
 - 中学校段階での大学見学など高等学校と連携したキャリア教育の推進

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- ・ 県から生徒 1 人 1 台貸与されている Chromebook を活用し、インターネットを通じて必要な情報を正しく集約する技能を身につける。
- ・ 大型提示装置（電子黒板）やプロジェクターを用いて自ら調べたことを双方向的に伝えることができるようにする。
- ・ 地域の学習施設や研究施設（鹿島宇宙技術センターなど）を活用し、専門的かつ生活な情報を得られるようにする。
また、地元のプロサッカーチーム（鹿島アントラーズ FC）との地域教育連携の締結を生かし、最先端技術に触れられるようにする。
- ・ 保護者の勤務先や家庭の協力を得ながらフィールドワークを行っていく。また、学習発表会には保護者にも参加してもらい、適切なフィードバックを得られるようにする。